

2007  
3  
NO.276

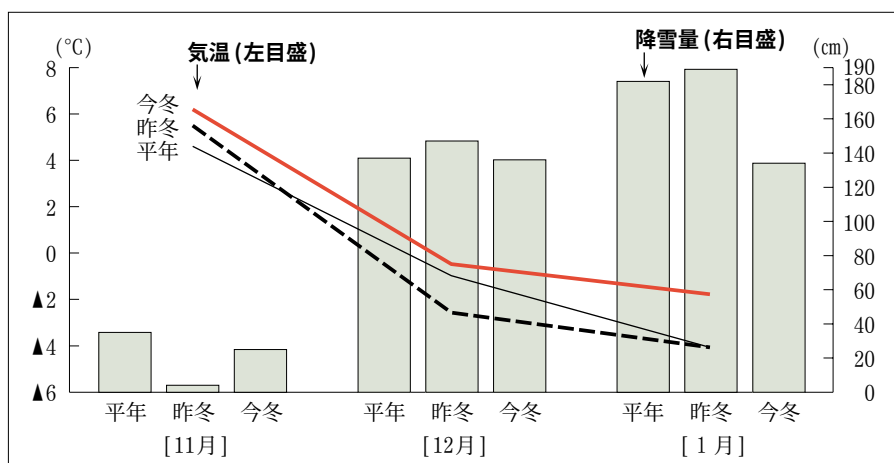
# 調査ニュース

## 今月の注目点

### ～歴史的暖冬～

今冬道内は、歴史的暖冬に見舞われている。特に、1月は、江差町の平均気温が同月として観測史上最高となったほか、枝幸町、浦河町でも降雪量が観測史上最少記録を更新した。衣料を中心に冬物販売が不振となっているが、温泉観光地では日帰り入浴者が増加するなど、行楽マインドの上昇もみられ、悪い面だけではなさそうだ。

札幌の平均気温と降雪量（11～1月）



|                                          |   |
|------------------------------------------|---|
| 最近の道内産業経済動向                              | 1 |
| ●主要経済指標でみる北海道経済                          | 2 |
| フラッシュ                                    | 3 |
| ●道内冬のイベント、一部で暖冬の影響も入込みは概ね増加              |   |
| トピックス                                    | 4 |
| ●道が普及を図る「北方型住宅」、"北国における安心住宅"づくりをサポート     |   |
| 道内ユニーク企業紹介 シリーズ⑩                         | 5 |
| ●独自技術を盛り込んだオンリーワンの車体を作り続ける<br>～札幌ボデー工業㈱～ |   |
| 地域だより（わが町の地域ブランド）                        | 7 |



## 最近の道内産業経済動向

個人消費が低調だが、設備投資の底堅さ、道外需要関連の生産増等を背景に、総体では緩慢ながら持ち直し基調。先行きは、公的需要の減少持続や所得環境の改善遅れ等から、横這い圏内で推移するとみられる。

### ●個人消費は総じて低調

12月の大型小売店販売（既存店）は、暖冬による冬物商品不振から2カ月連続で前年割れ（前年比▲3.3%）。なお、1月は、前半が初売りや冬物セール等で盛り上がったものの、中旬以降は息切れした模様。乗用車販売（12月）は、軽自動車（同17.0%増）が堅調に推移したが、普通車（同▲5.5%）・小型車（同▲15.8%）の前年割れにより、全体では8カ月連続で前年を下回った（同▲4.1%）。

### ●道内投資は設備投資が概ね底堅い動き、公共投資は一時的にプラス

住宅着工戸数（12月）は、持家、分譲住宅、貸家が揃って前年を上回り、全体では前年比24.3%増と5カ月ぶりのプラス（4-12月累計：同▲4.1%）。民間設備投資は、概ね底堅い動きが続いている。12月の民間建築物着工床面積（非居住用）は、同64.0%増と再びプラス。公共工事請負額（1月）は、同1.0%増と9カ月ぶりに増加（4-1月累計：同▲12.9%）。

### ●製造業生産は底堅い動き

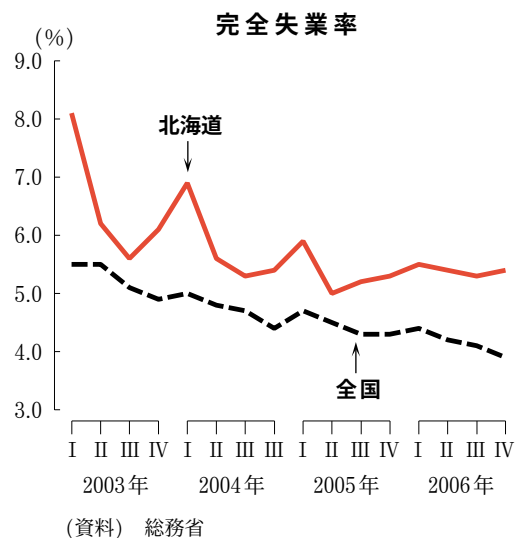
鉱工業生産指数（12月）は、前年比で3カ月連続上昇（2.6%）。石油製品、紙類などが低下したものの、金属製品（飲料向けスチール缶）、輸送機械（自動車部品）、電気機械（電子部品）等が道外需要増を背景に全体をけん引した。なお、前月比では3カ月ぶりに低下。

### ●観光は来道者数が増勢一服

12月の来道者数（除く海外からの直行便）は、少雪によるスキーツアー客の出遅れ等から、9カ月ぶりに前年を下回った（前年比▲2.2%。4-12月累計：同3.1%増）。スキー場利用客（リフト輸送人員ベース）は前年割れ（11-1月累計：同▲8.2%）。一方、東アジアを中心とする海外客は引き続き堅調。なお、さっぽろ雪まつり（2/6-12）の来場者数は、3連休効果等もあり2年ぶりに200万人台を回復（同5.8%増）。

### ●雇用情勢は概ね横這い

有効求人倍率（12月）は、常用で0.53倍と、横這いの域ながら2カ月連続で前年を下回った（前年比▲0.01ポイント）。完全失業率（10-12月期）は5.4%（同0.1ポイント悪化）。



## □ 主要経済指標でみる北海道経済

### (1) 消費・観光関連

(前年比伸び率・%)

| 年度・四半期・月         | 04   | 05   | 06/1-3 | 4-6  | 7-9  | 10-12 | 11   | 12   | 4-12(累計) |
|------------------|------|------|--------|------|------|-------|------|------|----------|
| 大型小売店販売額(既存店)    | ▲4.8 | ▲3.0 | ▲2.3   | ▲2.6 | ▲1.0 | ▲2.0  | ▲2.9 | ▲3.3 | (全)▲0.8  |
| 乗用車販売(含む軽)       | ▲2.2 | ▲1.2 | ▲0.6   | ▲4.9 | ▲4.2 | ▲4.8  | ▲5.1 | ▲4.1 | ▲4.6     |
| 来道者数(除く海外からの直行便) | ▲2.4 | ▲0.6 | ▲3.2   | 3.3  | 2.8  | 3.1   | 4.9  | ▲2.2 | 3.1      |
| 新千歳空港入国者数(概数)    | 58.8 | 12.0 | 9.6    | 33.9 | 40.8 | 48.2  | 60.3 | 25.8 | 41.5     |

- ・大型小売店販売は、既存店ベースでは、日ハム優勝セールがあった10月を除き百貨店、スーパーとも前年比マイナスが続いている。ただし、全店ベースでは、スーパーが新店効果等から9カ月連続のプラス(12月：同1.7%増、4-12月累計：同2.0%増)。
- ・来道者数(道観光協会調べ)は、12月単月ではマイナスとなったが、回復基調で推移。なお、2月上旬までの各地の冬のイベントは、準備段階で暖冬の影響を受けたものの、開催期間中の人出は、好天や3連休効果により概ね良好。

### (2) 建設関連

(前年比伸び率・%)

| 年度・四半期・月         | 04   | 05    | 06/1-3 | 4-6   | 7-9   | 10-12 | 11    | 12    | 4-12累計 |
|------------------|------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 新設住宅着工戸数         | ▲5.1 | 10.2  | 10.3   | 1.7   | ▲0.2  | ▲10.0 | ▲28.8 | 24.3  | ▲4.1   |
| うち持家             | ▲4.3 | ▲4.8  | 8.8    | 6.1   | 5.1   | ▲2.3  | ▲4.0  | 6.6   | 3.5    |
| うち貸家             | ▲8.8 | 22.7  | 34.0   | ▲1.4  | 6.3   | ▲13.5 | ▲38.0 | 17.8  | ▲3.6   |
| うち分譲             | 9.8  | ▲4.8  | ▲35.0  | ▲22.8 | ▲32.5 | ▲7.0  | ▲15.8 | 85.0  | ▲20.0  |
| (うち分譲マンション)      | 11.5 | ▲12.8 | ▲46.8  | ▲34.4 | ▲46.0 | ▲7.6  | ▲20.8 | 155.1 | ▲27.5  |
| 札幌市住宅建築確認件数(戸数)  | ▲1.7 | 19.5  | 3.8    | 5.8   | ▲16.0 | ▲5.8  | ▲11.3 | 32.9  | ▲5.9   |
| 前払い保証工事請負額       | ▲7.0 | ▲4.7  | ▲10.5  | ▲14.4 | ▲8.6  | ▲19.6 | ▲14.7 | ▲41.2 | ▲13.1  |
| 民間建築物着工床面積(非居住用) | 13.8 | ▲20.0 | ▲2.9   | 13.3  | 30.2  | 16.4  | ▲22.8 | 64.0  | 20.1   |

- ・住宅着工戸数(12月)は、前年(札幌市の高さ規制によるマンション駆け込み着工が一服して減少)の反動等からマンションが増加、5カ月ぶりに前年を上回った。なお、着工戸数の先行指標となる住宅建築確認件数(1月、札幌、戸数ベース)は、前年比8.4%増と2カ月連続のプラス。
- ・民間建築物着工床面積(非居住用)は、4-12月累計で同20.1%増。製造業、電気・ガス、情報通信等の伸び率が高い。

### (3) 生産・輸出関連

(前年比伸び率・%)

| 年度・四半期・月       | 04   | 05   | 06/1-3 | 4-6  | 7-9  | 10-12 | 11    | 12   | 4-12累計 |
|----------------|------|------|--------|------|------|-------|-------|------|--------|
| 鉱工業生産指数        | 0.2  | ▲3.6 | 0.0    | 3.7  | 2.1  | 3.0   | 2.6   | 2.6  | 2.9    |
| うち鉄鋼           | 3.5  | 1.9  | 2.0    | 5.3  | 2.1  | 4.2   | 10.0  | 4.4  | 4.5    |
| うち電気機械         | ▲0.1 | 1.7  | 13.3   | 10.7 | 18.7 | 6.3   | 6.4   | 9.3  | 11.8   |
| うち輸送機械         | 3.3  | 2.5  | 16.2   | 21.6 | 17.5 | 12.9  | 10.5  | 11.2 | 17.2   |
| 通関輸出(函館税関・道内分) | 12.5 | 10.4 | 9.2    | 27.2 | 25.8 | 10.2  | ▲12.8 | 7.3  | 19.9   |

- ・製造業生産は、道外需要向けの割合が高い業種を中心に堅調に推移している。輸出は、鉄鋼、化学製品、自動車部品などを中心に増加基調で推移しており、4-12月累計では2,432億円(前年比19.9%増)。なお、輸入も原油の価格高騰などにより増加している(4-12月累計：同27.7%増)。

### (4) 倒産・雇用関連

(前年比伸び率・%、前年差・ポイント)

| 年度・四半期・月       | 04    | 05    | 06/1-3 | 4-6  | 7-9   | 10-12 | 11    | 12    | 4-12累計 |
|----------------|-------|-------|--------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 倒産件数(東京商工リサーチ) | ▲7.7  | ▲3.8  | ▲14.9  | 8.3  | ▲21.1 | ▲4.3  | ▲26.4 | ▲12.8 | ▲6.1   |
| 有効求人倍率(常用、前年差) | +0.05 | +0.03 | +0.02  | 0.0  | +0.02 | 0.0   | ▲0.02 | ▲0.01 | +0.01  |
| 完全失業率(前年差)     | ▲0.6  | ▲0.5  | ▲0.4   | +0.4 | +0.1  | +0.1  | —     | —     | +0.2   |

- ・倒産件数は減少基調で推移。しかし、負債総額は大型倒産があったことから、4-12月累計で前年の約2.6倍(2,713億円)。雇用はほぼ横ばい圏で推移している。12月の有効求人倍率は、常用(前年比)では悪化となったが、全数(季節調整値、前月比)では横ばい(0.61倍)。完全失業率(10-12月期)の0.1ポイント悪化は、完全失業者数が横ばい(15万人)で推移する中、労働力人口が減少(前年比▲3万人)したことによるもの。

(資料) 各種公表資料、ヒアリングによる。

## 道内冬のイベント、一部で暖冬の影響も入込みは概ね増加

道内各地で冬のイベントが最盛期を迎えている。代表格であるさっぽろ雪まつり（2/6～12）の来場者数は、3連休効果や概ね好天に恵まれ、210万人（前年比5.8%増）と2年ぶりに200万人の大台を回復。また、各地でも地場の強みを生かした取組みが奏功し、入込みは一部を除き前年を上回っている。

### 「さっぽろ雪まつり」は海外客の受入態勢が一層充実

さっぽろ雪まつりは、近年国際色がより色鮮やかになってきている。ここ数年の道内における東アジアを中心とした海外客数の増加も手伝い、今年も海外客の姿が多く見られた。西11丁目会場で開催された国際雪像コンクールには17チーム（去年は15チーム）が参加。一部旅行代理店では、急増しているオーストラリア人スキー客向けに、ニセコ発着の雪まつりツアーを企画するなど、新たな集客に向けた動きもあった。一方、受入側での態勢も充実。実行委員会では、延べ100人超の通訳ボランティア配置に加え、6言語での市内観光パンフレットを用意。市内宿泊施設がここ数年進めてきた外国人スタッフの採用や、利用案内への外国語（英語、中国語、韓国語等）表記なども、期間中の集客にプラスとなったようだ。大通会場の一角に今年初めて設置された「北海道食の広場」には、道内各地から18店舗が出店。「ジンギスカン」や地場の海産物など北海道の「食」を、多くの観光客にアピールする場となった。なお、「参加型」をメインに2年目となった「さとらんど会場」は、課題であった交通渋滞や、会場の混雑にも改善がみられ、約21万人（前年比18.3%増）が訪れた。昨年に続き、延べ1,000名以上のボランティアが運営を支えるなど、地域に根ざした取組みが継続しており、3年目の更なる飛躍が期待される。

### 一部で暖冬の影響あるも、地域の強みを生かした企画で集客増

今冬のイベントは、一部で暖冬との戦いを強いられている。根室市では、少雪から「ニオムロ冬の祭典」が中止に追い込まれた他、他地域の一部イベントでも、作り上げた氷雪像の表面が融けたり、雪像規模の縮小などを余儀なくされた。しかし、こうした中で、地域の強みを生かした企画や連携による集客増も多くみられる。帯広市では、来年度の単独開催が決まったばんえい競馬が、全国的注目の高まりから、来場者が12-1月累計で前年比14%増加。「おびひろ氷まつり（1/26～28）」でも、ばん馬との綱引きや遊覧馬そりが人気を集めた。旭川市では、06年度の年間来場者数が270万人を突破した旭山動物園が、アザラシの「外でモグモグタイム」を新設、<sup>おはこ</sup>十八番の「行動展示」に新たな1ページを加えた。「旭川冬まつり（2/8～12）」の入場者数は、動物園との連携効果もあり、同1割強増加の90.7万人。また、小樽市でも、「小樽雪あかりの路（2/9～18）」の人出が前年を上回りそう。今年の「第10回ふるさとイベント大賞（総務大臣表彰）」・最高賞を道内で初めて受賞したこのイベントは、使用するろうそくが約15万本。市の人口（約14万人）を大きく超え、今年も街全体で来場者にぬくもりを伝えた。

06年度上期の道内観光入込客数は5年ぶりに前年比増加（北海道調べ）。年末年始にかけ、来道者数はやや弱めの動きとなったものの、道内への観光客入込みは増加傾向が続いている。冬季の好調さが1年を通して持続することが期待される。（石田 琢磨）

## 道が普及を図る「北方型住宅」、 “北国における安心住宅” づくりをサポート

積雪寒冷地の住宅は、厳しい屋外環境に対応する高い性能が求められる。道が普及を推進している「北方型住宅」とは、北海道の住宅に必要な性能を備えた住宅のこと。「住宅性能・品質について安心できる仕組み」の提供を通し、道民の住宅づくりをサポートしている。

### 当初 5 年間で約2,000棟が認定

「北方型住宅」は、北海道における安心住宅の普及を目指し、昭和63年から、道を中心に産学官一体で基準づくりが行われ、設計や性能等に関する記録保存も、その仕組みに取り入れられた。施工側主導の採用に加え、建て主が「北方型住宅で」と施工側に希望すれば、誰でもその仕組みを利用した住宅づくりができる点が大きな特徴だ。当初 5 年間で、約2,000棟が「北方型住宅」として認定。北海道標準ともいえる性能基準を満たした住宅の浸透を図る、という点では相応の成果を上げてきた。

### 建て主側は安心を確保、施工側は技術力のアピールに

以降、建築技術の向上に加えて、高齢化や環境対応など住環境の変化に伴い、平成15年度には、新たな展開の方向性が示された。まず、基本性能に係る道独自の具体的基準として、新たな「北方型住宅基準」を定めた点。認定は、施工者に関係なく、積雪寒冷地向け標準仕様の住宅としての、いわゆる“お墨付き”に相当。また、独自認定の専門技術者による設計・施工が義務付けられており、施工側にとっても、施工実績が技術力のアピールにつながるというメリットがある。さらに、良質な住宅づくりと資産価値の維持向上を支える仕組みとして、「北方型住宅サポートシステム」を整備。設計、性能、使用部材、工事経過等の登録データ（いわば、住宅版カルテ）が第三者機関に保管されるため、リフォーム・機器故障時等における適切な対応や、売却時における客観的資産価値の評価が可能など、建て主側にとって、将来的にも安心度が大きい仕組みとなっている。

### 地域における建築技術力の向上につながっている例も

最近では、大手を中心に、施工者独自の性能基準設定や記録システムの導入も増えつつあり、施工側による「北方型住宅」の採用は、建て主からの要望があった場合にのみ対応するケースが多いようだ（新基準での施工実績業者は30数社）。ただ、中には地域ぐるみでの積極採用により、地域における住宅性能の底上げ（技術力向上）にうまくつながっている例も見られる。なお、今年度の認定住宅は100棟程度となる見込み。今後道では、10年後を目処に年間400棟まで引き上げたいとしており、また、道内住宅ストック全体の質的向上を図るべく、中古住宅にも基準や記録保管の仕組みづくりを広げていく予定。「北方型住宅」の更なる普及は、住宅取得予定者の認知度アップが、その一つのカギとなりそうだ。（黒瀧 隆司）

### 「北方型住宅」の新しい展開内容

|                                        |                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「北方型住宅基準」                              | ○新たに、4つの基本となる性能について、約180のチェック項目を定めた。<br>①長寿命（高耐久性、高耐用性、維持管理の容易さ）<br>②安心・健康（高齢社会への対応、健康で快適な室内空間）<br>③環境との共生（省エネルギー、環境負荷の低減、美しいまちなみの形成等）<br>④地域らしさ（地域資源の活用） |
| 「北方型住宅サポートシステム」（07年2月より試行中、4月より正式運用予定） | ○WEBにより、設計、性能、使用部材等の情報を、登録、閲覧、保管する仕組み。<br>①計画・設計内容が基準に適合しているかをチェック<br>②工程ごとに施工内容をチェック、写真で建て主に報告<br>③登録保管されたデータを必要に応じて引き出し、リフォーム時などに活用                     |

（資料）北海道建設部（建てるなら！北方型住宅 URL：<http://www.kita-sumai.com>）



## 独自技術を盛り込んだオンリーワンの車体を作り続ける

～ 札幌ボデー工業(株) ～

自動車は荷物や人を遠方まで運ぶことが使用の主な目的。そんな中、単に運ぶだけではなく、車内で人が仕事をするための自動車も多方面で活躍している。食品の調理・販売車、商品展示車、テレビ中継車、移動入浴車など、目的も大きさも様々な特殊用途車だ。最近では、“移動しながら、または、移動先で仕事をする”ニーズが多く、業種で一層高まっており、特殊用途車の種類は増加の一途だ。道内にも、高い技術力への信頼を背景に、多様な特殊用途車を全国から受注している企業がある。今回は、使用目的に最適な車体（ボデー）を、FRP（ガラス繊維強化プラスチック）で丈夫かつ美しく仕上げ、顧客から好評を得ている札幌ボデー工業(株)を紹介する。

### いち早くFRPを車体材料に取り入れる

特殊な用途に使われる自動車は、トラックやバン、バス等をベースに、大半がオーダーメードで造られる。量産できないため、大手メーカーよりも技術力に優れた中小規模のメーカーが得意とする分野だ。当社は自動車ディーラーとして1949年に創業。車体に幌を取り付けるなど簡易な車体改造をサービスとして行っていたことが、車体製造技術の蓄積につながった。当社製品を特徴づけるFRPを、道内で初めて、国内でもいち早く、材料として使用できるようになったのは、創業者である先代社長のアイデア。昭和40年代に、米国でFRP製の車体をみて、加工が容易でデザイン性が高く、軽くて丈夫、錆びない、断熱性が高い等の性質に着目したのがきっかけだ。鉄、アルミなど素材の特性が異なる金属とFRPをスムーズにつないで加工するには高度な技術が必要とされるため、FRP製車体を主力とする当社の技術力への評価は高い。現在は、車体受注の半分以上が、保冷車や冷蔵冷凍車など貨物運搬用のトラック車体。熱を遮断するために断熱材をFRPで挟んだサンドイッチパネルを使用するなど独自技術を用い、顧客の運搬する荷物に最適な車体を製造している。

### 当社を代表する特装車「トライハート」を1992年に開発、全国から注目

車体受注のもう半分以上が、様々な特殊用途車（社内では特装車と呼ぶ）。特殊な車を求める顧客が自動車ディーラーに相談し、当社を紹介されるケースが一般的だが、口コミで受注が相次ぐことも多い。代表的なのは、1992年に札幌市消防局と共同で開発した4WDの高規格救急車「トライハート」だ。これは、救急救命士が同乗して応急処置がとれる救急車。医療機器を多く積めるようにスペースを広くしたほか、遠隔操作でベッドを積み込む、揺れを抑制するなど

当社の特装車

トライハート



トイレ付き安全標識車



家畜検診車



厨房車



の工夫をこらした（一部は特許取得）。雪国のため4WDとして開発したもののだが、降雪地域でなくても足元が悪い道路での安定走行に効果があるため、京都、山口など西日本からも受注。現在は全国各地で60台以上が稼働している。

この他に当社が手掛けてきた特装車には、工事現場で使われるトイレ付き安全標識車、災害現場での支援活動拠点となる災害支援車、図書館車などがある。また、ラーメンやソフトクリームなどの調理販売車や、家庭に出張してパーティ料理を調理する厨房車など食品を扱う車も多い。こうした車には、調理機械を洗う設備を車内に設けるなど独自の工夫がこらされている。最近では、号外配布に適した新聞の移動印刷車を道内外の新聞社から相次いで受注した。高齢化を背景に、入浴車、診療車、理美容車などの需要も徐々に増加している。

なお、運転席から荷台に歩いていける構造を持つのが当社特装車全体の特徴。これは、1990年に、道などが主催する「第3回北の生活産業デザインコンペ」の大賞を受賞した「セミウォークスルーバン」で当社が実現させたユニークなアイデアだ。



移動入浴車の内部

### 複雑な生産管理はチーム担当制でクリアー

特殊用途車メーカーは全国で数十社と数多いが、大半は、空港バス、図書館車など特定分野に特化している。当社のように、簡単なものから“世界初”というものまで様々な車を受注するメーカーは珍しい。設計から完成までの期間に数週間から1年超までのばらつきがある中で効率よく生産を進めるために、当社では製品ごとに最初から最後まで同じメンバーが製造にあたるチーム制をとっている。こうした生産管理手法が評価され、道立工業試験場や道工大などが実施する「北海道型生産管理中核人材（ものづくりエキスパート）育成プロジェクト」のモデル工場（工場実習での研修先）にも選ばれた。

### 車輛運行管理システムの販売も

売上げの大半を占める車体のほか、当社では浄化槽等のFRP製品も製造。また、GPS利用による「運行管理システム」の開発・販売も手掛けている。システムは、インターネット接続で運行に関するデータの収集・保管ができる、ドライバーが簡単に操作できる、などが特徴。顧客サービスの一環と位置づけて価格も低く設定している。走行データの分析・活用により、燃費削減効果が期待できるとあって、運輸業を中心に関心が徐々に高まっており、今後有望だ。

当社の開発ポリシーは「他社と同じモノを造らない」。高度な技術を背景に、顧客の要望に最も適した“オンリーワン”の車体を造り続けてきた当社にとって、今後も活躍の場は大きい。

#### 【会社概要】

|      |                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 本 社  | 札幌市西区発寒15条13丁目4-60<br>☎011-662-2511 Fax 011-662-4342                      |
| 設 立  | 1979年4月（創立：1949年6月）                                                       |
| 資本金  | 3,500万円                                                                   |
| 代表者  | 堀田 彰                                                                      |
| 売上高  | 1,985百万円（2006年3月期）                                                        |
| 従業員  | 80人                                                                       |
| 事業内容 | 自動車車体製造、FRP関連製品（各種タンク、携帯電話中継局舎等）製造                                        |
| URL  | <a href="http://www.sapporo-body.co.jp">http://www.sapporo-body.co.jp</a> |

（松本 則栄）

## 幌加内町 『幌加内そば』



当地域は、そばの作付面積、生産量ともに日本一。こしが強く、香りが良いのが特徴。町とＪＡきたそらちが協力し、高水準の乾燥施設整備や、新品種（「ほろみのり」）開発等、高品質化に注力。関連商品は約30種、現在商標登録出願中。

## 網走市 『釣（つり）きんき』



「きちじはえ縄漁業」として道内で許可されている漁船（網走漁協所属の4隻のみ）が漁獲したきんき（正式和名は「きちじ」）だけに使用されるブランド（網走漁協、平成18年商標登録）。生きたまま釣り上げられ、船上で箱詰めするため鮮度が良い。

## 夕張市 『夕張メロン』



北海道を代表する地域ブランド（ＪＡ夕張市、平成5年商標登録）。品種名は「夕張キングメロン」。甘い香りと柔らかい果肉で、外観の色から食べ頃が分かり易い。ＪＡ夕張市により徹底した品質管理が行われており、毎年5月中旬の初セリでは1玉25～40万円にも。

## 厚岸町 『カキえもん』



シングルシード方式（幼生から一粒一粒育成）による養殖法を国内で初めて導入した純厚岸産カキ（厚岸漁協、平成18年商標登録）。網かごの中で転がって育つため、殻は丸みを帯び、身はふっくらと厚く甘みがある。11～5月頃が最盛期。

## 調査ニュース

編集・発行

北海道銀行

道銀地域企業経営研究所 経済調査室

〒060-8676 札幌市中央区大通西4丁目

☎（直通）011-233-1032 内容照会先 黒瀬

北海道銀行ホームページ <http://www.hokkaidobank.co.jp/>

印刷 有限会社 北光社